令和５年度科学研究費助成事業「学術変革領域研究（A）」に係る中間評価結果

領域番号	20A102	領域略称名	土器を掘る
研究領域名	土器を掘る：22 世紀型考古資料学の構築と社会実装をめざした技術開発型研究		
領域代表者名 （所属等）	小畑　弘己 （熊本大学・大学院人文社会科学研究部（文）・教授）		

（評価結果）

B（研究領域の設定目的に照らして研究が遅れており、計画の見直しが必要である）

（評価結果の所見）

本研究領域は「農耕化は人類に何をもたらしたのか」との課題に対して、「土器総合分析学」を構築し技術の社会実装を図ることで応える、との点が高く評価されたものである。各計画研究は一定の研究成果をあげており、機器利用の促進や若手育成にも取り組んでいる。膨大な土器資料への非破壊分析が実用化すれば、人類史にかかわる新たな学術領域の創出が期待できる。

一方で中間評価報告書では採択後に「基礎資料の検出と資料化のための技術開発に集中する」と研究目的を変更したことが示された。本研究領域の審査時から「農耕化は人類に何をもたらしたのか」に関する研究には、審査所見や留意事項において、具体的な研究プロセスの提示と実績を求めていたところであり、改めて適切な対応が求められる。

研究成果の国際発信は当初目標に達しておらず、計画の見直しと改善が必要である。また、文化財行政機関等への研究手法の技術移転に関する社会実装については研究計画と大きく乖離しており、再度課題を整理した上で引き続き取り組むことが求められる。

現状では「土器総合分析学」の具体的な展開や発展の道筋が十分示されておらず、「農耕化は人類に何をもたらしたのか」という課題にも革新的な成果の見通しがない。学術変革領域研究としての意義を踏まえ、狭い考古学と関連分野に留まらない課題への追及とともに、個別研究の寄せ集めではない「土器総合分析学」の構築のための道程を明確化する必要がある。